

オープンハウスの森 森林保全活動の実施について

2023年11月24日、株式会社オープンハウスグループ(本社 東京都千代田区、代表取締役社長 荒井正昭、以下「当社」)は、当社のサステナビリティ推進のための活動の一環として、ぐんま昆虫の森内に位置する「オープンハウスの森」(群馬県桐生市)にて、森林保全活動を実施いたしました。

今回は、本活動にご賛同いただいた三井住友銀行様と共同で実施し、当社グループに係る人々が森林の機能を知ることや、森林整備を体験することを目的として、昨年に続き3回目の実施となり、三井住友銀行行員のみなさまと、当社グループ社員、内定者、およびグループ会社の群馬クレインサンダーズの社員・公式マスコットのサンダくんの総勢約90名が参加しました。

【研修の内容】

- 開会式
- 講義(群馬県森林ボランティアセンター)
 - 群馬県の森林について
 - 森林が抱える課題
 - 森林保全活動の意義
- 植樹(三井住友銀行様からご寄贈)
- 実地体験(下草刈り、機体験)



講義で日本の森林への基礎知識や森林保全に携わることの重要性を学んだ後、今回は三井住友銀行様からご寄贈いただいた「クヌギの木」の植樹を実施しました。その植樹式では、参加者を代表して三井住友銀行北村光人部長と当社ブランドコミュニケーション部長の西村依希子、並びに群馬クレインサンダーズ公式マスコットのサンダくんが参加しました。

実地体験では、鎌を使った下草刈りや、電動の刈払い機の操作を行いました。サンダくんも草刈りを体験し、参加者たちと共同で作業しました。するどい刃が高速回転する刈払い機は、キックバックといって障害物に衝突すると反動で大きく跳ね上がることがあり一歩間違えると大けがに繋がりがかねないため、慎重な作業と集中力が不可欠です。



【内定者の感想】

- 見た目以上に大変だということを実際に体感することで、草を刈っている職人の方々の偉大さを身に染みて感じました
- 私たちが当たり前に住んでいる家も、森林を適正に管理してくれている人たちがいるからだと、改めて認識することができました
- 生活していく上で、私たちが生きていく上でも必要なことであり、自然への感謝を感じました

森林の課題として、土砂崩壊防止や土砂流出の防止機能が低下していることや、風害、雪害等の災害に弱い森林が増加している問題に直面しています。私たちオープンハウスグループとして引き続きこのような活動を継続し、地域の課題解決を通じて地域共創プロジェクトを推進して参ります。

【ぐんま昆虫の森とは】

全国的にもユニークな「昆虫」をテーマにした体験型教育施設です。45ヘクタールの敷地に雑木林や田畑、小川などの里山を再現。そこで暮らす昆虫を探し、手に取り、その生態をじっくり観察できます。

安藤忠雄氏設計の昆虫観察館では里山の生きものや世界の昆虫をいつでも見ることができ、亜熱帯の植物が生い茂る温室では、日本最大級のチョウ「オオゴマダラ」が飛び交い、間近で観察できます。そのほか、昆虫クラフトやふれあいコーナーなど各種プログラムも楽しみ、かやぶき民家では四季折々の自然を感じられる里山生活が体験できます。

